

社会福祉法人 SKY かわさき はっぴわーく



FACILITY DATA

業種 社会保険・社会福祉・介護事業
事業内容 障害者総合支援法に基づく
就労継続支援のための施設の運営
開設 2009年9月
代表者 はっぴわーく所長 嘉門 琢美
所在地 川崎市多摩区登戸 2959
職員数 8名
利用者数 28名

施設紹介

「働きたい」というニーズの充足及び生活の充実を目的に活動。作業や就労に関する学習会を採り入れ、働く場・就労へのステップアップの場としての機能を果たしている。施設においては、ジャム製造作業、内職作業、清掃作業などを行っており、より働きたい方や一般就労を考えている方には、他事業への移行を視野に入れた目標設定を行っている。

ホームページは
こちら



▲拡張したジャムファクトリー



▲新製品開発も視野に入れ導入した機器



▲夏場でも作業環境が快適になった

“

新型卓上加熱攪拌機、電気蒸気殺菌蒸し庫などを導入 ジャムファクトリー新設で製造量を2倍以上に

”

- ① 狭小の製造スペースを拡張、新製品開発も視野に汎用性の高い機種を導入
- ② 製造量の向上がダイレクトに工賃（時給）の上昇につながった

1 経営課題

Task

従来のジャム製造スペースは狭小で作業人数は一度に3～4人がやっとの環境。夏場はジャムを煮込む熱気で冷房が追い付かず、休憩時間を延ばして対応していましたが室温30℃前後の環境になってしまうため、利用者がより働きやすい環境を整えることが急務でした。また、冷蔵庫、冷凍庫も足りず製品の食材の保管スペースなど課題は山積していました。そのため、1日に製造できる量も4キロ程度で、年々増加する需要に対して生産が追い付いていない状況が最大の課題でした。

2 取組概要

Approach

電磁調理器の増設、新型卓上加熱攪拌機、電気蒸気殺菌蒸し庫などを導入し、32帖のジャムファクトリーが2019年8月に完成しました。導入機器の選定はスペースとコストの制約で難航しましたが、展示会での実機見学、実際にメーカーへ材料を持ち込み試験を重ね安全で操作が難しいものを選びました。また、立ち仕事であることの疲れ対策や、食品を扱うため体調管理がしやすいようシフト制で対応、製造作業が難しい利用者にはラベル張りや販売に携わってもらっています。

3 実施効果

Effect

熱気がこもることなく夏場も25℃程度の快適な室温で作業可能となりました。作業に携わる利用者也最大6名に増員可能となり、製造量も従来の2.5倍となりました。従来のジャム製造室には業務用冷蔵庫を設置し、食材保管室として活用することで多くの食材が保管可能となり、安定してジャム製造が行えるようになりました。また、大量生産や新商品にも対応できる機器を導入したことで、ジャム以外の新製品開発にも着手。2020年9月に、近隣の福祉作業所（はぐるま工房）が育てたシリアンルージュトマトを使ったトマトソースをリリースしました。

成果
1

新製品開発と新しいつながり

新聞・テレビなどメディア
にも大々的に取り上げられました。

成果
2

生産量・売上げ上昇

生産量 **2.5倍**、売上げは7年で約 **3倍**

成果
3

作業人数増加

受け入れ可能人数が2倍に増加

成功要因

- 利用者、職員同士で密にコミュニケーションをとり、利用者の意見を改修・改善点に反映させた点
- 働きやすい環境・動線のレイアウトについてはそれまでの経験で構想が深まっており、改修のビジョンが共有されていた点

利用者が安心して活躍できる場を提供していくことが原点

設立時は作業メニューが少なく、自分達で製品を作ろうと地元名産の「多摩川梨」のジャム作りに着手。JR東日本による南武線沿線の地産地消プロジェクトに紹介されたことをきっかけに需要が急拡大。当初はどの様に対応していくか悩みましたが、利用者に確認したところ、「大企業から自分達の製品が認められたことはうれしい、やりたい」という声が多く、ここがターニングポイントになりました。今回の改修も利用者、職員同士の話し合いを通じて想いを共有しました。これは普段から心がけていることで、チャンスの時にとっさに動くためには普段の密なコミュニケーションが欠かせません。利用者が安心して活躍できる場を提供していくことが原点、こうした新しい取組を通じて、受け身ではなく、自分達で知ってもらうきっかけを通じて、障害者雇用の社会的認知度を高めていきたいです。

所長 嘉門 琢美 所長代理 田中 敦子

利用者・職員の声

- ジャム製造の作業人数が以前の2倍に増えたため、入所待機者の受け入れ枠の増加が可能となり、当事者支援の一貫にもつながっています。
- 元々ジャム製造担当は立ち仕事で重労働のため人気がありませんでしたが、毎年時給が上がることでモチベーション向上につながり、前向きに取り組む利用者が増えてきました。
- 夏場でも涼しく作業ができるようになるなど、作業環境が快適になったことで利用者からも「働きやすくなった」との感想が多く寄せられています。

今後の展開

・新製品開発とあわせて、改修から5年後の2024年までに売上げを約2倍にアップさせ、利用者の工賃に反映します。利用者、職員も含め、当事者が楽しまないで長続きしないため、ジャム以外のレパートリーを増やしていく予定。「かわさきそだち」をコンセプトに、市内の農園で栽培された梨、キウイ、梅、みかん、夏みかん、トマト、いちじくなど多様な素材を活用して新製品の開発を行います。